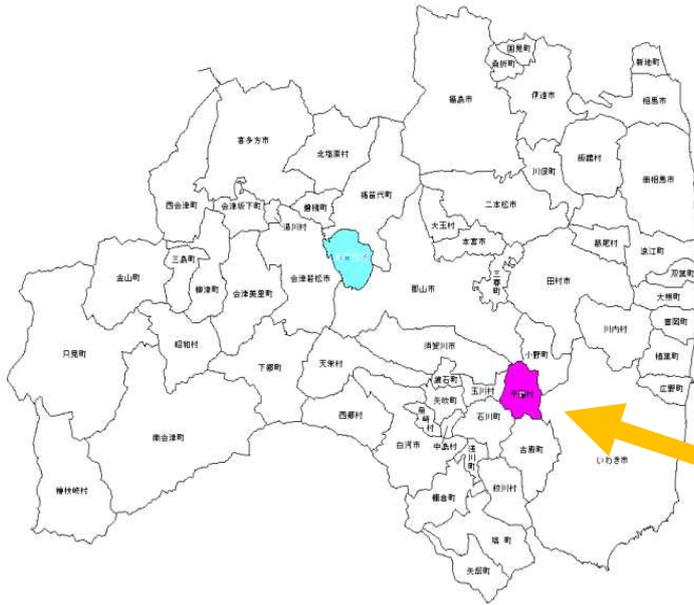


総合事業等に関する市町村の取組

福島県平田村



ジュピアランドひらた 芝桜まつり



平田村

平成29年11月 作成

0

福島県平田村

基礎データ

- 総人口: 6,409人
- 高齢者人口: 1,793人
- 後期高齢者人口: 989人 平成29年1月1日住民基本台帳年齢階級別人口(市区町村別)(総計)
- 高齢化率: 27.9%
- 後期高齢者割合: 15.4%
- 要介護・要支援認定者数: 340人 厚生労働省「介護保険事業状況報告」(H29.1月月報)
- 要介護認定率: 18.9%
- 地域包括支援センター数: 1箇所(委託)
職員数 : 4
職種 : 主任介護支援専門員 1、社会福祉士 1、生活支援コーディネーター 1
福祉活動専門員 1
- 第6期介護保険料: 4,800円

1

協議体について

平成28年5月 第1層設置

構成員数 16名

平田村社会福祉協議会に委託(事業計画、議事進行等は共同で実施)

委託すれども丸投げはせず

生活支援コーディネーターについて

平成28年4月 第1層設置 1名

平田村社会福祉協議会に委託

社協と協議を重ね、両事業の必要性を話し合ったうえで委託契約した。

協議体の風景



協議体の設置と役割を理解するために

背景

- ・平成28年5月に「任命」という形で協議体を設置(事務局は、行政と生活支援コーディネーター)。
- ・メンバーは、婦人会・老人会・一般高齢者(住民代表)、包括支援センター・保健師(保健福祉関係)、通所介護・訪問介護・訪問看護(介護サービス事業所代表)、ボランティアセンター・民生児童委員・社協(地域福祉団体)、事務局を入れて16人で構成。
- ・地域づくりについて、話し合いが深まった上での協議体設置ではないため、委員の第一声は「協議体って何?」「自分たちは何をすればいいの?」担当職員もどう進めて良いかわからない...困ったなあ。とりあえずメンバーと住民と一緒に勉強することから始めよう。

取組のポイント

- ・月に1回は、集まる機会をつくる(協議体委員会の開催)
- ・住民と共に勉強する機会をつくる(地域づくり講演会の開催)
- ・地域づくりに関心のある人、担い手になってくれそうな人を見つける(支え合い担い手養成講座の開催)
- ・実際に支える専門家も必要(介護職員初任者研修を県の指定を受けてはどうか)

取組の内容

事業内容

住民と共に学ぶ

「結」や「結返し」の意識
や地域の関わりを取り戻
そう。地域全体で支え合
おう

『地域づくり講演会の開催』

第1回 7月31日 「支え合い いきいきと暮らせるむらづくり」
(講師：CLC 池田昌弘氏)

第2回 12月18日 「もっと豊かな地域をつくるには ~今地域でできる
助け合い~」(講師：さわやか財団 大山重敏氏)

現在実施しているサロンをもっと身近な場所につくる
ことも必要。サロンに参加できるようにするために、
何かできることはあるかな。サロン参加者と交流しよう。

第3回 3月5日 「SOSと言える地域を目指して」
(講師：福島大学 鈴木典夫教授)

震災後の取り組み
『いるだけ支援』と同様
に、いつでも『気につ
けてよ』、『助けてっ
て、お互い様だよ』

4

取組の内容

事業内容

担い手になってくれる人を見つける

実際に支え合い担
い手になってくれる
人が、こんなにいる。
平田村も捨てたもん
じゃないね!!

『支え合い担い手養成講座の開催』

第1回 2月 2日 「助けてと言える地域を目指して」
(講師：福島大学 鈴木典夫教授)

気軽に支えて欲しいと言える人間関係を作ることが大事
関西は、さみしい・話したい 行きますか お願いします
東北は、さみしい・話したい 行きますか **いやいや大丈夫**

第2回 2月22日 「傾聴とコミュニケーション」
(講師：針生ヶ丘病院 大森洋亮氏)

悩むのも人間関係、解決するのも人間関係。誰にでもできる
助け合いは『傾聴』。自分たちにも出来ると確認し合う。

第3回 3月 7日 「暮らしの中で『気づき』と『私にできること』」
(講師：福島市社協 佐藤 めぐみ氏)
実際の訪問活動を具体的に知る

5

取組の成果

- 地域づくり講演会や支え合い担い手養成講座への参加で、地域づくりの大切さや身近な方法を住民と一緒に学ぶことができた。

実際に担い手になろうと言う人材が出てきた。新たな協議体委員への新メンバーが発掘できた。

協議体委員のメンバーとして、もう一歩前に進みたいと言う意欲が湧いてきた。

来年度も

協議体が育ってきたので、
現メンバーで、このまま進めよう！！

平成28年度末時点の方針

6

やってきたこと

平成28年度～平成29年度「協議体」の取組み状況

実施状況	時期	内容	協議体で共有したこと
第1回	H28.5.13	<ul style="list-style-type: none"> ・講話「協議体と生活支援コーディネーターの役割について」 講師：県社協 総務企画課長 高岡寿哉氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を受けながら自立生活を維持させる ・社会参加、人とのつながり、生きがい、楽しみの支援 ・山番づくり、役割づくりの支援 <p>↓</p> <p>実現するために必要な資源の創出 (今あるもの、今後必要になるもの)</p>
第2回	H28.6.17	<ul style="list-style-type: none"> ○平田村の現状と課題の把握 ・第6期ニーズ調査結果及び地区組織、ボランティア等社会資源について ○第1回地域づくり講演会について ○担い手の創出 ・担い手養成講座について 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題 <ul style="list-style-type: none"> ・日中独居、独居高齢者が増える ・外出手段がない(他人に頼むとお金がかかる) ・転ぶのが怖くて外出しなくなる ・誰かの世話にならないと外出できない ・外を歩いていると声をかけられ、自由に歩けない。(運動と認識してもらえない) ・歩いて買い物に行ける場所は限られている ・趣味活動の場が少ない、趣味を持っている人が少ない ・活動する場所がない ・家事手伝いをちょこっとやってもらえるサービスが欲しい ・高齢者は話し相手を欲しがっている ・若い人たちの社会参加の低下 ・遠方にいる家族が社協をとおしてサービスを依頼してくる ○地域づくり講演会 <ul style="list-style-type: none"> ・CLCの理事長に依頼決定 ・演題の決定 ・年間3回程度開催しよう決定 ○担い手養成講座・重要で不可欠な講座であると同意 <p>サロシ未設置地区の立上げを提案、7月開始に向けて活動</p> <p>支え合い担い手養成及び専門の介護員の養成講座の提案</p>

いろいろやりました。

7

平成28年度～平成29年度「協議体」の取組み状況

実施状況	時期	内容	協議体で共有したこと
第3回	H28.7.31	<ul style="list-style-type: none"> 第1回地域づくり講演会の開催 講師：CLC理事長 池田昌弘氏 演題：「支え合いいきいきと暮らせるむらづくり～誰もが自分らしく生きるために～」 	<ul style="list-style-type: none"> 講演会の共催となる。住民と共に学ぶ。 とにかく地域と繋がろう 「きょういく」・今日行くところがある。今日用がある。 介護サービスなど個別支援は、つながりの希薄化を招く 地域支援が肝である(気になる人と気に掛ける人を結ぶ)
第4回	H28.9.6	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくり講演会から学んだこと 協議体として取り組むことを話し合う 次回講師に聞きたいこと 	<ul style="list-style-type: none"> 講演会から学んだこと 講演会に参加したほとんどの人が、地域支え合いや地域活動に興味があった。 身近な事例で地域支え合いができることを学んだ。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> サロンの必要性、2～3人でも 介護保険サービス利用者にも地域で見守りが必要 <p>協議体として取り組むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> リーダーの育成 行政区毎の特徴と課題を把握する。 各地域で協力する人を発掘する。 行政区の代表者との集まりを持つ(区長、民生委員など) <p>○講師に聞きたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> 人を集める方法 意識付け、言葉かけの方法 サロンを立ち上げたり、継続させる裏ワザ ボランティア活動への意識付け <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>・行政区毎の特徴や課題を探すことを提案</p> <p>・担い手養成講座「ちょこっと助け隊」の開催決定</p> </div>

平成28年度～平成29年度「協議体」の取組み状況

実施状況	時期	内容	協議体で共有したこと
第5回	H28.10.5	<ul style="list-style-type: none"> 協議体の在り方・運営の仕方について 地域の資源の見つけ方 	<p>NPO法人 CLC 理事長 池田昌弘氏から講話</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の地域を考える(短期間ではできない、支援は長く) 何ができないのではなく、何ができているのかをみる 地域でやっている見守り支援を、協議体委員が写真などに納め広報活動していく 男性の居場所づくり 各団体で見守り支援しているが、情報共有したい 自分たちで地域に向き、地域の見守りを発掘し、協議体で共有する。
第6回	H28.11.11	<ul style="list-style-type: none"> サロンの見学及び意見交換会(身体機能向上及び支え合い事業のモデル地区) 地域支え合い担い手養成講座 介護職員初任者研修について 	<ul style="list-style-type: none"> ○サロン参加者との交流会 ・サロンの実情が分かった ・下蓬田・打違内の2行政区合同サロンは交流もでき情報交換もできて良かった ○地域支え合い担い手養成講座 ・3回コースで講座を開催する ・誰でも安心して参加できるようにメニューを工夫して欲しい <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>サロンの形について提案</p> </div> <p>○今後の地域づくり講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月18日に決定 ・2月26日頃開催 鈴木教授に決定 <p>○地域の資源の発掘について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の地域の資源を見つけてくる(次回話し合う) <p style="text-align: right;">→ 平成29年度に持ち越し</p> <p>・介護職員初任者研修の募集開始。(県の事業所指定を受ける) ※12/14～2/28実施予定</p>

平成28年度～平成29年度「協議体」の取組み状況

実施状況	時期	内容	協議体で共有したこと
第7回	H28.12.18	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回地域づくり講演会 講師:さわやか財団 大山重敏氏 演題:「もっと豊かな地域をつくるには…～いま、地域でできる助け合い～」 ・支え合い担い手養成講座 ・先進地視察研修 	<ul style="list-style-type: none"> ○講演会の共催となり、行政とともに開催し学んだ ・生活支援のニーズ…あると助かる、助け合い。不意に起こる困りごとの解決 ・地域の主人公は住民、住民同士のつながり、元気な人は担い手に ○担い手養成講座を1月～3月実施決定 ○先進地視察を昭和村に依頼した <p>協議体委員で希望者は参加。</p>
第8回	H29.1.25	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地視察(昭和村) 	<ul style="list-style-type: none"> ・協議体の具体的役割と委員自身の今後の役割を理解する ・平田村の地域にあった協議体のあり方、見守り支援を作る必要がある <p>↓ 意思統一が図られた</p>
第9回	H29.2.28	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回介護職員初任者研修修了式 ・平成28年度事業経過報告 ・先進地視察研修で学んだこと及び今後に生かすことを話し合う ・支え合い担い手養成講座進捗状況について(担い手になる人はいるのか) ・地域づくり講演会進捗状況及び第3回地域づくり講演会について ・平成29年度事業計画について 	<ul style="list-style-type: none"> ○初任者研修11名の修了式に出席(新たな担い手の誕生) ○支え合い担い手養成講座の進捗状況(2回済) ・既に活動している人も、今後活動したい人が講座に参加している ○事業計画 ・支援する人の発掘も大事だが、支援して欲しい人の発掘も大事⇒次回の講演会のテーマとする <p>「ちょこっと助け隊」の希望者が平田村には結構いるね。</p>

10

平成28年度～平成29年度「協議体」の取組み状況

実施状況	時期	内容	協議体で共有したこと
第10回	H29.3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回地域づくり講演会 	<p>講師:福島大学行政政策学類 教授 鈴木典夫氏 テーマ:目指す地域像を考える(SOSと言える地域を目指して)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SOSと言える環境を作る ・普段の見守り支援から、支援して欲しい人を発掘する ・サロンに出席して、支援の必要な人を発掘する など <p>○来年度の新協議体委員を講演会で募る</p>
第11回	H29.3.21	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度の事業計画 	<ul style="list-style-type: none"> ○来年度は、新協議体委員は入れずこのまま継続することを確認(1年間学んできて、機運が盛り上がってきた、温度差がある) ○来年度は、協議体委員として何をするかじっくり話し合う。
第12回	H29.4.18	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度事業の振り返り ・平田村の目指す姿 グループワーク 「80歳になった時にどう生活をしたいか」のイメージを話し合う ・地域づくり講演会 	<ul style="list-style-type: none"> ○目指す姿 ・体力の維持、健康を保つ、できないことを補ってもら、家族や友人関係、移動(運転)、地域との交流、金銭管理、生きがい、楽しみ…などについて話し合った <p>↓ 「何かあったら気兼ねなく相談でき、すぐに駆けつけてくれる相手がいると安心して生活できる」 「自分のことは自分で出来、映画などを見ながら、えー80歳なのと言われる人でありたい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○CLC木村氏来村(インタビューを受ける) ・楽しい協議体でびっくりした <p>地域のつながりを作るのには、つながりを作るんだと言う気持ちを持って話し合いをすることが重要であり、それを実施している。</p>

11

平成28年度～平成29年度「協議体」の取組み状況

実施状況	時期	内容	協議体で共有したこと
第13回	H29.5.19	<p>(グループワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指す姿の実現のために ●何かあったら気兼ねなく相談でき、すぐに駆けつけてくれる相手がいて安心して暮らせる ●自分のことは自分ででき、映画などを見ながら「えーもう80歳なの」と言われる人でありたい ⇒本人が、家族が何かできるか 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分だったら (1G) <ul style="list-style-type: none"> ・友人を作る、増やす ・地域に積極的に参加する ・連絡網を作っておく ・80歳まで生きられる元気な体をつくる(共通) ・普段から自分から相談する ・家族にも友人などを知ってもらう (2G) <ul style="list-style-type: none"> ・外出する習慣をつける ・自分の身の回りだけでなく、周りにも目を向ける ○家族だったら <ul style="list-style-type: none"> ・本人の友人に気兼ねなく声をかける ・隣近所に記声をかける ・共通の趣味を持つ ・家族のコミュニケーション ○地域だったら <ul style="list-style-type: none"> ・仲間作りをする ・地域の関係づくり ・行事の大切さ、継続する
第14回	H29.6.26	<p>(グループワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目指す姿の実現のために ●何かあったら気兼ねなく相談でき、すぐに駆けつけてくれる相手がいて安心して暮らせる ●自分のことは自分ででき、映画などを見ながら「えーもう80歳なの」と言われる人でありたい ⇒協議体なら何ができるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の祭りごとを絶やさないことも重要だよね そこに参加することで、地域のつながりや見守りができるよね ・協議体で行っている地域づくり勉強会を地域に発信することも大事 <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">これを今後、協議体として行っていく</p>

12

平成28年度～平成29年度「協議体」の取組み状況

実施状況	時期	内容	協議体で共有したこと
第15回	H29.7.23	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回地域づくり講演会 針生ヶ丘病院 大森洋亮先生 「いきいき笑顔の地域づくり ～こころのシェイプアップをしよう～」 	<ul style="list-style-type: none"> ・エゴグラムをとおして自分を知る ・過去と他人は変えられない。今ここから始まる未来と自分は変えられる。 + その結果相手が少し変わったらしい ・こころのキャッチボールをするために
第16回	H29.9.26	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の資源を探そう 「各地域で行っている活動を把握し、今後も継続することで、地域での支え合いにつなげる」 ・県内の協議体の様子を報告 (地域支援コーディネーター交流会から) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員からそれぞれの地域の行事等を発表 ・祀りごとは事ほどの地域も行っている。 ・以前は各家庭持ち回りだったが、今は温泉宿で行うことが多い⇒近隣の実情が分からなくなってきた。 ・冠婚葬祭も自宅で行わない、手伝いも簡素化された。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員のいない地区も調べていく ・3世代交流などを調べる ・こんなことがあったらいいなどを深める
第17回	H29.11.8	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間の振り返り ・今後の方向性 	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">今までを振り返り、今後協議体として、今後どう進めるか話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年7か月が過ぎて、協議体として行ってきたことを振り返った(感想) ・協議体で話し合ったことが、形になっていることが再確認・共有できた。 ・協議体で話し合ったことが村づくりの大事な部分だと思った。自分たちが地域を作る根源になっていく ・何から始めて良いか模索しながらの協議体であったが、国の施策とおりはなくても、平田村の地域性がでた話し合いができて良かった。 ・「ちょこっと助け隊」なども平田村にあった内容になっている。 ・振り返ったことで、自分たちの活動に自信が持てた。 <ul style="list-style-type: none"> ○今後は情報を発信していこう。 ・その媒体として、介護予防手帳を作成する。(各行政区のサロンや支え合い、交流事業。介護予防のための栄養・口腔・運動など。ちょこっと助け隊、運動ボランティア、傾聴ボランティア 介護予防事業などを掲載する) ・「広報ひらた」「社協ほほえみ」に、特集を掲載する。

13

地域づくり講演会と担い手養成講座の様子



14

今後の展望

かなりの勢いで講演会や担い手養成講座を開催し、学びを深めてきたが、「地域で高齢者がどんなことに困っているのか」、「どんな支援をどのような形で行うのか」、具体化した活動について深める作業をしたい。もっと話し合いたい。



協議体委員に新メンバー(住民代表)を加え、活動力のパワーアップを図る。
新たに、事業ごとの検討部会を作る。
支え合い担い手養成講座受講者を巻き込んでいく。

認知症ボランティア・認知症カフェを立ち上げる準備
新たなサービスを開拓する(ちょこっと助け隊で検討)
講演会の検討及び開催
地域の資源を再確認する(実際に聞き取る)



より住民目線で！

『協議体』は、支えあい担い手の『ちょこっと助け隊』とは別に、地域全体を考えていこう！！

15

平田村の介護予防

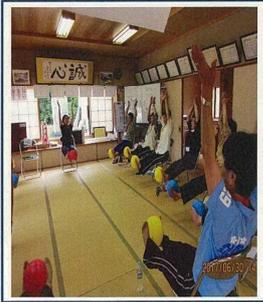
『住み慣れた平田村でいきいきと暮らすために』

～村の介護予防事業・交流事業を紹介します～

高齢者になっても住み慣れた平田村でいきいきと元気に住み続けるために、日頃から心身の健康のため介護予防を意識して生活し、隣近所声かけ合い地域のつながりを持ち続けることが大切です。現在開催している、村の介護予防事業や交流事業を紹介します。

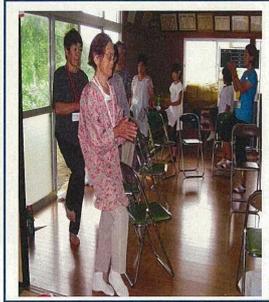
- ◆「鴛子」と「中倉2」行政区でいきいきサロンを開始しました！！
社会福祉協議会が支援し、「地域の仲間と集まって、運動やゲームなどを楽しむ地域の居場所づくり」としてサロンを実施しています。
昨年度から、「運動・社会参加・見守り支援」などの3つの柱を取り入れたモデル事業を展開していますが、今年度は、鴛子・中倉2行政区が6月から開始し、9月からは九生流・東山行政区が開始する予定です。高齢者だけでなく、地域の皆さんもぜひ参加してください。

(写真)



※いきいきサロンでの運動や笑いヨガなどの様子

いきいきサロン



- ◆地域づくり講演会『いきいき笑顔の地域づくり』を開催

村と生活支援体制整備事業協議体（地域に合った見守り支援や必要な生活支援体制を検討することを目的とし、昨年5月に設立）が主催した地域づくり講演会を7月23日に中央公民館で開催しました。

講演の中での、「相手を変える考え方」を紹介します。

『過去と他人は変えられない。しかし、いまここから始まる自分と未来は変えられる…その結果おまけとして、相手が変わってくれたらいいなあ』

(写真)

地域づくり講演会



講師の針生ヶ丘病院居宅介護支援事業所の大森洋亮所長による講演会の様子

平田村の介護予防

ニコニコ元気アップ教室

- ◆ニコニコ元気アップ教室の紹介

ニコニコ元気アップ教室は、65歳以上の高齢者を対象に、ひらたフィットネスクラブで、週に2回（火曜日・金曜日）開催しています。教室では、「体力増進、生きがいがづくりを含めた介護予防に取り組み、高齢者がいつまでも健康で自立した生活を送ることができるようになること」を目的としています。

～ニコニコ元気アップ教室の効果～

① 体力測定

教室では、年に2回体力測定を実施していますが、前期高齢者（65歳から74歳）は体力測定5項目全てが改善され、後期高齢者（75歳以上）も歩行速度や握力等が改善された結果でした。体力測定の結果から教室に参加することで、年齢に関係なく体力が維持されることがわかりました。

② 参加者へのインタビュー

教室に参加しての感想についてインタビューを行いました。インタビューの結果、38人中（前期高齢者16人、後期高齢者22人）教室に参加してから良い変化があったと答えたのは、前期高齢者は11人で69%、後期高齢者は17人で77%でした。

村が開設するフィットネスクラブで週2回ニコニコ元気アップ教室を開催しています。

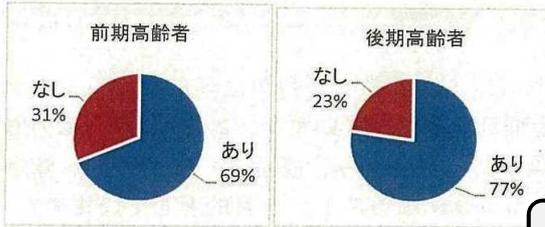
年2回の体力測定では、良い変化が見られています。

ひらたフィットネスクラブ

本格的トレーニング機材を備えトレーナーも常駐
郡内住民は低料金で利用可能

利用者のうち要介護となる人が著しく少ない。（過去1人）

教室に参加しての変化



え?!、もう80歳なんですか?!

ニコニコ元気アップ特別教室

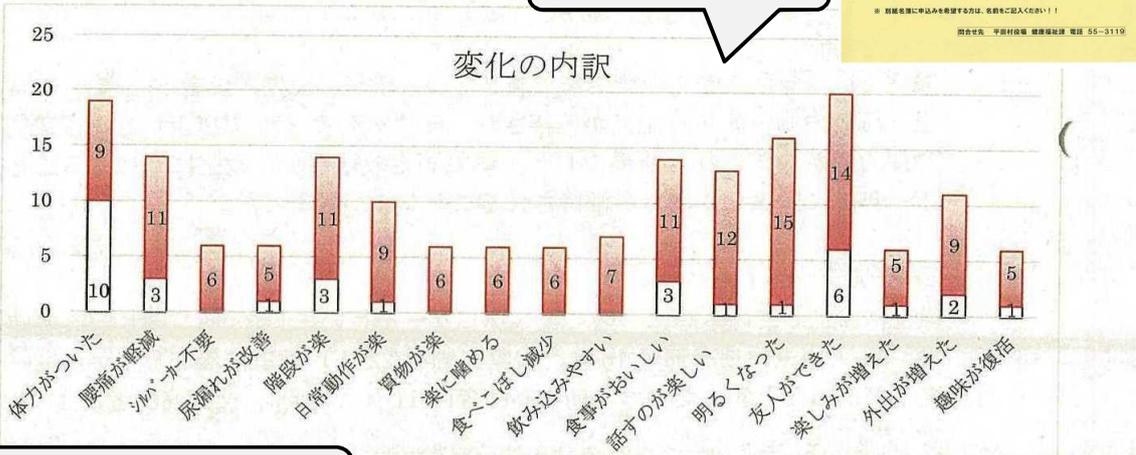
福島県立医科大学医学生が学びの成果を地域で発信することになりました。学生による特別講座、毎日限定開催します。学生が地域の健康に貢献を怠りたくなく、皆様の心遣いを感謝いたします。学生が健康と勉強を両立して、地域貢献活動を目指し、活動が実ることによって安心して暮らせるようになりたいと思います。ぜひ、お問い合わせの上、ご参加ください。

【日時】 平成 29 年 8 月 23 日 (木)
午前 10 時～12 時 (受付 9:30～)

【場所】 中央公民館 講堂

【内容】
第 1 部 講話 (10 時 10 分～10 時 50 分)
【いつまでも美味しく食べるために】
～僕の健康は全身の健康～
講師 歯科衛生士 小黒 幸子 先生
第 2 部 医大生との交流 (11 時～11 時 30 分)
※参加費を申し込んでも見舞する方は、名刺もご記入ください!!

問合せ先 平田村役場 健康福祉課 電話 55-3119



見た目も若くなっています。

□ 前期高齢者 ■ 後期高齢者

福島県平田村

ジュピアランドひらた 芝桜まつり



おわり